

# 来春の桜まつり 4月6日、7日にきまる

第14回となる県立狭山稲荷山公園での“桜まつり”実行委員会が11月16日、中央公民館にて開催されました。

- ・主催は文団連と狭山市観光協会
- ・日時 4月6日(土)、7日(日)
- ・実行委員長 中村伶華(狭山市三曲連盟)
- 副委員長 板倉 巧(狭山オカリナクラブ)
- 同 細田道夫(狭山市観光協会)

尚、既に参加希望が例年通りあり、一般参加の募集を1月の市広報でおこなう予定です。

満開の桜の下で楽しいイベントとなる事に期待大です。  
(高沢正夫)



## 「狭山市民文化祭を観て」 子どもの舞台に感動!

嵐のような拍手が鳴りやまない。10月20日の市民会館小ホール。第17回新舞踊「花の会」の舞台。「紅顔可憐の少年が死を持って守るこの砦・・・」11歳の少女が舞う「白虎隊」である。

私は文団連に関わるようになって、ずっと新舞踊連盟の「花の会」を鑑賞させてもらっている。子どもたちの舞台は特に楽しみである。可愛らしい童謡舞踊あり、大人顔負けの艶やかな演歌もある。私はこの「花の会」を観るたびに、小学3年生の時、村の演芸会で友達2人と赤い振袖を着て、紺の絵日傘を持って踊った「野崎小唄」を思い出す。そして今も2人との親交は続いている。



紫峰会の11歳の少女が舞う「白虎隊」

「紫峰会」の子どもたちは、青少年文化体験フェスタから新舞踊を始めた子どもが多いと聞いている。中学生になっても、部活動や受験勉強にも負けずに頑張っている子どもたち。

9人の先生方の舞台は素晴らしく、普段ジーンズ姿の紫峰先生の艶やかな「川の流れるように」にも感動したが、今も私の心に残っているのは、凛々しい少女の「白虎隊」の舞台である。鶴ヶ城を舞台にした来年の大河ドラマ「八重の桜」も楽しみにになった。  
(板屋捷子)

### 常任理事会便り

新しく常任理事会と事務局制度が始まって1年半が経ちます。何事もPDCA(Plan・Do・Check・Action)を回すことが大事というわけで、来年度の役員改選を控え、常任理事会では組織改正のビフォー&アフターを議論(Check)しています。

反省点の一つとして、理事会の回数を減らした結果、一般理事との意思疎通をはかりにくくなったのではないかとこの事が挙げられています。

この議論は今後の理事会でも継続して行い、必要な修正(Action)をします。参加して楽しく、また意義のある文団連にしていきましょう。

小川事務局長